「福は内、鬼も内」の掛け声で撒かれた福豆で、一年の邪気を払い、福を呼び込みました。1月31日・福豆鬼節分会みワークショップ

北上市立 鬼の館だより 第32号

KITAKAMI Oni MUSEUM

岩崎地区青年会による門掛け隊が
古くは和賀地区の
小正月儀礼として行われていた
邪気祓い習俗を再現。
地域のご家庭に訪問し
木ボラの異様な音で
その家に潜む陰気の邪気を
追い祓うというもの。
始めはちょっと頼りない音も
鬼も驚く魔除けの音となり
岩崎の夜に響き渡りました。

1月30日・福豆鬼節分会前夜祭
「厄除け百鬼水夜行宴」

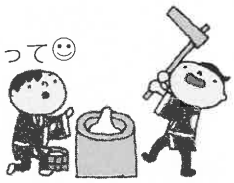
冬のわんぱく講座鬼剣舞体験。
毎年たくさんのおともだちが参加し
節分会で見事なステージを魅せてくれます。
今回は特に、インフルエンザが大流行の中
週末は館で汗を流して練習を重ね、
本番は日頃の感謝の気持ちをのせて
元気な声を響かせて
感動を運んでくれました。

1月9日-31日　全7回・鬼っこわんぱく講座
「鬼剣舞体験」

福豆まきのはじまりはじまりぃ。福はうち!鬼もうち!

福豆鬼節分会（ふくまめおにせつぶんえ）

鬼の館冬まつり恒例行事となりました福豆鬼節分会。
少し風が冷たい１月31日(日)の当日、館は1500人を超える来場者を迎えての大賑わい。
前年から猛威をふるったインフルエンザもどこ吹く風で、はふはふつきたてお餅をほおばって☺
ゲームに芸能鑑賞に豆まき、餅まき、たくさんの笑顔と歓声が館にあふれました。
さぁて、一年の邪気を払って、今年はどんな福が待っているのか…
楽しみ楽しみ♪



オニノヤカタ2009 下半期 ⑨ りぽーと

鬼の館でのあれやこれを振り返ってみました。

特別展 故門屋館長追悼展

10/11 ~12/13

調査資料や収集品公開

当館初代館長門屋光昭氏の三回忌を迎えることを期に本展を開催する運びとなりました。国内における民俗学者として知られる同氏はフィールドワークを身上に各地に赴き、芸能や信仰、その土地の土壌や人々の言葉、息づかいに至るまでを調査研究された方です。

調査資料やコレクション、執筆原稿や現地での写真や映像、愛用のカメラや手紙など、故人の調査に捧げた情熱と信念、温かい人柄に触れた展覧会だったのではないでしょうか。

移動展示 祝 第119回鉄道の日 記念展示

10/17 ~11/30

「陸奥 鬼のなかまたち」

この移動展示は、JR北上駅が「鉄道の日」の記念行事開催にあたり、当館が収蔵資料の展示依頼を受けて実現したものです。

北東北3県の鬼たちと高校生による鬼の仮面、そして正面には旧岩崎小卒業生による鬼剣舞面が、北上駅ご利用の皆様を、にぎやかに出迎えしました。

特別展 収蔵資料展 千種万様

~4/11 開催中

館にやってきた鬼紹介

鬼の館では鬼資料の充実を図るため、継続して資料収集に努めています。本展はその成果を公開するものです。今回はより親しみやすく鑑賞いただけるように、鬼翔平をモデルにしたジオラマを制作展示しています。

ジオラマにはアニメ鬼太郎や鬼武者などのフィギュアもたくさん登場。

この機会にぜひ一度足をお運びください♪

特別展 開放事業 よろず伝承展

12/20 ~2/21

奥州文庫 高橋勉コレクション ―いにしえの匠―

本展は美術・工芸品を多数収集する高橋氏のコレクションの中から、江戸時代のものを中心に美術や工芸分野における優れた職人技に迫ったもの。武家の座敷を再現し、現代の品物がどこに交じっているか、来場者にクイズに挑戦してもらいました。

親子で 冬休みワークショップ

1/9 ~1/13

見て、考えて、作って

今回は「すな絵馬」「消しゴムはんこ」「ステンド鬼灯り」の3つのメニューに挑戦してもらいました。

考えるってむずかしいけど、出来あがりがどうなるかワクワクするね。お父さん、お母さんも負けずにステキな作品ができちゃった♪

平成22年1月14-16日

鬼学移動研修

日本三大火祭りのひとつ。そして国の重要無形民俗文化財である野沢温泉道祖神祭り。男たちの激しい火の攻防の後、高さ20mもの社殿に火が放たれ夜空を焦がす。

火祭りの熱気と降りしきる雪の寒気の中、新たな一年の幸先を祈ってきました。

今回は、研修に参加された12名の受講生を代表して、門屋祝子さんにレポートいただきました。

北上市和賀町
門　屋　祝　子

国指定無形民俗文化財
長野県野沢温泉村道祖神火祭りを実見して

1.「岩手鬼」15名いざ出発!7:30

今年の正月は例年になく大雪だった。当日の天候は図星、雪。しかも長野県北信地方は17年ぶりの大雪とか。国道4号線から高速に入ると、通行止め情報が次々と入り車内に緊張が走った。ともあれ15名の心は一つ、東京方面から一路野沢温泉村へひた走りに走った。長野に入ると、大雪のため難儀を伴うスリル満点の旅行だった。車窓から見る山並みは西和賀の冬を何倍も色濃くした迫力で圧倒された。今まで見たことのない光景だった。

私は、静かに期待感が膨らんだ。この雪国の厳しい自然の中で暮らしてきた人々の思いや願いとは何か。160年もの間守り受け継がれてきた伝統とは何か。今宵展開するであろう「道祖神火祭りの心」というものにふれてみたいと高揚した。

2.厳寒の小正月行事

17:15火祭り会場へ出発。各家々の玄関や出窓、雪明かりには清楚で可憐な「**木造道祖神**」が飾られて幽玄を誘う。10分も経つと激しい霙と寒さで全身がジンジン痺れた。皆ゴム長靴を履き防寒具を重ね着し「道祖神記念ハッピ」を身にまとい勇ましく格好良い姿をしていたのだが並の寒さではない。途中御神酒所で頂いた一杯は美味しく身体を熱くした。取分け地方の方との会話は心温まる。「何処から来ましたか」「岩手県の鬼の館です」「岩手の鬼ですか。遠くからようこそ」と。以降、「**岩手鬼!集まれ　出発!**」の掛声によって、一糸乱れぬ団体行動となった。これぞ道祖神のご加護である。

3.「木造道祖神」と「初燈籠」
～縁結びと子孫繁栄を願って～

容姿が非常に見苦しいため婿にも嫁にも行けずにいた二つの神が結ばれたところ、目出度く男子が出生したことから縁結びと子宝の神様となった。家々では「**木造道祖神**」を作って飾り、前年に長男が誕生した家では感謝の意と子どもの成長を祈って「**初燈籠**」を火祭りに奉納する仕来りだという。その高さは5間(約９m)、遠くから見ても華麗で見事な造作だった。燈籠は一族や友人達が総出で作り費用と労力は相当なものと推察された。奉納する家の関係者一同の願いや心意気が感じられ、

⑩ 2010年度・インフォメーション

★特別展

- 「能面展　幽玄の雅」・・・4月25日（日）～7月4日（日）
- 「心の創造主　神・鬼・仏」・・・7月18日（日）～9月26日（日）
- 「よろず伝承展」・・・10月10日（日）～11月28日（日）
- 「鬼・気・木の造形展」・・・12月12日（日）～平成23年2月13日（日）
- 「収蔵資料展」・・・3月6日（日）～4月17日（日）

子孫繁栄の喜びが伝わってくる。

4.厄年男衆が強固な組織へと

～160年続く「野沢組惣代」と「三夜講」～

祭りは、野沢温泉村を代表する「**野沢組惣代**」が総元締めとなり「**三夜講**」と呼ぶ厄年の男衆が祭りを執行する。「**三夜講**」とは、男の厄年42歳・41歳・40歳の3つの年代が組織を編成し同じ仲間で3年間行事を行う。ここへ毎年25歳の厄年男衆が加わり祭りの組織が出来る。「**三夜講**」を結んだ仲間とは一生涯の付合いとなり非常に結束が堅いという。「**野沢組惣代**」は平安時代より湧出ている温泉の源泉を守り一切の年中行事を取り仕切る人を指し、かつて惣代を務めた宿のご主人の話には説得力があった。

祭りの準備は前年の9月中旬御神木伐採に始まり、当日の「社殿造営」「炎上」までそれこそ一週間以上も自分の仕事を犠牲にして祭りに携わるため、野沢の男となる重要且つ宿命的なものとして代々受け止められてきた。厄年行事を勤め上げた暁には、初めて村の仲間入りができ一人前として認められるのだという。「先人達の知恵と信仰に裏付けられた祭りの心を間違いなく伝承できることは誇りです。」と熱く語っていた。

5.祭りの最高潮は、社殿炎上!

～皆の無病息災を願う～

20:00社殿に目が奪われる。夜空に聳える神木の高さは約17m。道祖神社殿の高さ地上から約7m。幅は8m四方約40畳分。この櫓が俄に炎上する様は想像だにできなかった。

21:00待つこと1時間。古式に則って採火された松明が野沢組惣代によって火元河野家から運ばれてくると拍手が起こり会場の大松明(麻幹)に灯火。「おおっ」という歓声と同時に勢いよく炎が立ち上がった。一瞬大気が引き締まる感じだった。火は世情の悪気を祓い清める浄化の主体になるのだという。この場に立会う機会を得たことに感謝である。

浄化の火付けは1番が野沢組惣代、次に燈籠の奉納者、子どもたち、大人の順に整然と行われた。社殿の上では厄年42歳連が「道祖神の唄」を歌う中、下では社殿を守る25歳厄年の男たちが荒っぽい壮絶な攻防戦を展開した。約1時間半、22:30双方の手締めが執り行われ社殿に火が入れられた。計算され尽したかの如く火が回り見事な炎上だった。炎が大きく空高く燃上ると祭りは最高潮に達した。極め付けは、燃え盛る社殿が真っ二つに折れ音を轟かせて真下に崩れ落ちた情景は言葉に尽くせない感動だった。火柱が立ち天空を突き昇天していく様子からは確かに悪気は浄化されたと確信できた。後ろで地元の中高生が「今年は成功だったね。凄い」

と話していた。すでに後継者の資質と自覚が育っている。こうして伝統文化が脈々と伝承されていくのかと思うと、寿命が短かった古の人々の「生きること」へ真摯な執念が今に通じ脱帽する。今夜の思い出は一生記憶に残るだろう。23:40全員ずぶ濡れ凍えた体で宿到着。雪はしんしんと降り続く。「ショーンション、オショションノ、ショーンション」と心の中で手締めをして眠りについた。

6.終りに

今回の研修を通して、地域によって異なりを見せる日本の民間信仰の形態を知ることができ大変勉強になった。道祖神火祭りで一人一人の厄が落とされ今年1年風邪などひかず無病息災で過ごせる力を取得したのだから、ますます鬼学の研鑽を積まねばならないと殊勝にも頭をかすめた。鬼の館の皆様、同行の皆様、ありがとうございました。

⑩ 2010年度・インフォメーション

★鬼学講座　9月～1月　5回講座
東北六県の鬼の習俗について学習

☆わんぱく講座　5月～2月
鬼に関する創作及び体験活動

★福豆節分会　平成23年2月6日(日)　(予定)

☆大果神楽大会　6月初旬日曜日

☆鬼の館芸能公演　午後1時30分から
鬼の館野外ステージにて開催　鑑賞無料

4月25日(日)	北藤根鬼剣舞	7月25日(日)	二子鬼剣舞
5月3日(月)	未定	8月15日(日)	岩崎鬼剣舞
5月4日(火)	岩崎鬼剣舞	8月22日(日)	相古鬼剣舞
5月23日(日)	鬼柳鬼剣舞	9月26日(日)	滑田鬼剣舞
6月6日(日)	御免町鬼剣舞	10月10日(日)	口内鬼剣舞
6月27日(日)	谷地鬼剣舞	10月24日(日)	三館鬼剣舞

今回は、当館学芸員が
鬼剣舞についてじっくり解説！
２号にわたるお話の
後編です！

scene17-②　鬼学ノート

「念仏剣舞の縁起と源姿」(後編)

これまでのお話…

前編では念仏剣舞の由来にまつわる口伝や秘伝書、論考等を紹介しながら、芸能の源姿について考察しました。本編では、仏教布教の視点から考察してみます。

２．原姿の歴史背景

各念仏剣舞の由来には、剣舞が目的とする共通の意識が見られる。ひとつは、念仏による衆生済度を願う浄土信仰と阿弥陀信仰的側面、ひとつは、悪魔退散や災厄祓いの呪術的側面の二つの共通的側面である。

これら二つの要素を考える上で、着眼しなければならない歴史的な事象として「仏教の伝播」と「山伏修験僧の派生」を避けて推論することはできない。

一般的に仏教伝来の年代を問えば538年若しくは552年の飛鳥時代とされ、我が国に〝密教〟が伝来した起源とされている。しかし、この時代における初期の密教は、神秘主義的、呪術的、儀礼的な要素が様々に混在し、除災招福などの現世利益を追求しただけの〝雑密的〟傾向の強い仏教であり、白鳳時代や奈良時代に受け継がれていく。この教義を日本風に体系化し再構成したのが、９世紀初頭に活躍した天台宗の開祖である伝教大師最澄と真言宗の開祖弘法大師空海である。この二人によってもたらされた仏教は経典や教義を主体とした象徴主義的儀礼ないし観修法によって宗教理想を達成しようとする仏教であり、〝雑密〟に対して〝純密〟と呼ばれた。以降、この密教思想は師資相承のもとで伝時されることとなり、慈覚大師円仁や智証大師円珍が輩出されている。

しかし、この仏教思想は広く庶民に流布されることはなく、貴族や公家層の画一化された社会での宗教観に止まる傾向にあったため、この教義に疑問をもった僧侶の輩出を招くこととなる。平安時代中期に登場した民間浄土教の祖とも言うべき僧侶、〝空也(903～972)〟である。弘也、市聖、阿弥陀聖、市上人とも呼ばれ、国内における浄土思想の発生起源とされる。空也は在俗の仏教行者として五畿七道を遍歴し、名山霊窟等で修業をするかたわら、道路の険しい所は岩石を削って平坦にし、水を必要とする所には井戸を掘り、死骸を見れば油をかけて火葬し阿弥陀仏を唱えたとされ、20余歳の頃、尾張の国分寺で出家し〝空也〟と名のり、以後も在民一体となった民間布教僧として活動する。また、空也には、瓢箪を叩き念仏を唱えながら踊る「踊り念仏」の創始者としての顔を有す。これに関する説話として次のような「鉢叩きの伝承」がある。

〝空也は、こよなく鹿の鳴き声を愛していたが、その鹿を平定盛が射殺したために深く悲しみ、空也はその毛皮で袈裟を作り、角を杖の頭に付けて念仏を唱えて供養すると、定盛は悪行を悔いて空也に従い、念仏踊りを踊りはじめた〟とされる。この鉢叩きの伝承は、庶民にも普及し、中世及び近世には門付け芸として半僧半俗の芸能者によって演じられるようになり、現在では「空也念仏踊」として八葉寺(福島県河東町)、養老寺(名古屋市)で踊られていることからすれば、日本の民間信仰の諸要素を合せ備える一方で民俗芸能派生の要素であるとも考えられる。この念仏踊りは、以降、中世の「一遍」をはじめとする民間布教僧に影響を及ぼすこととなり、多様化した〝密教〟隆盛の基礎を築き、鎌倉密教へと受け継がれ、踊り念仏の継承者「一遍」の登場となる。

一遍(1239～1289)の信仰の核心は、法然や親鸞が説く〝救いは衆生の努力や阿弥陀如来の力によるもの〟とする教義ではなく、〝南無阿弥陀仏の名号そのものにある〟とする阿弥陀信仰である。すなわち一遍の目指す教義は、ひたすら名号を唱えることによって阿弥陀如来と衆生と名号とが渾然一体となり、そこに救いの世界があると説くもので、一種の他力念仏の極致が見られる教義である。一遍は、そうした教義を名号札(南無阿弥陀仏・決定往生六十万人と書かれたお札)の配布と踊り念仏によって民衆に広め、結果、名号札は救いの証拠として民衆の心をとらえ、一方の念仏踊りは民衆に解放感と宗教的な心の高揚をもたらし民衆に受け入れられることとなる。さらに16年間にわたる遊行布教では、各地域の民衆の生活に密着した土着の様々な伝統信仰や神祇信仰を認める宥和方策を取り入れるなど、各地の宗教的な力を幅広く吸収する中で鎌倉時代の仏教布教の中で大きな流れとなった浄土教を純化し、土着化させることに成功した僧である。

このように空也及び一遍の姿勢に見られる在民一体となった民間布教は、民衆の信仰心を高揚させ、手段としての踊り念仏もまた民衆に定着化し、時の移り変わりとともに源姿を変えながらも中世から近世へと広がりを見せることとなる。

一方、これら仏教布教活動と並行する歴史的事象としての山伏修験の存在がある。山岳で修業し超自然的な霊力を体得して呪術宗教的な活動を行うことから〝山伏修験僧〟とも〝客僧〟とも呼ばれる存在である。

国内では、山岳は霊地として崇められ、奈良時代以降仏教や道教の影響で山岳で修行し、霊力を得て呪術を行う者が派生する。これが山伏修験僧の源姿であるが、平安時代になると最澄や空海の「山岳仏

教の提唱」もあり仏教僧も山岳で修行するようになり、この源姿と接点を有して融和し、平安時代末期頃には熊野や吉野を拠点として次第に勢力を持ち、「修験道」と呼ばれる宗教一派を作り上げる。以後この宗教一派は、鎌倉・室町時代に至って熊野や吉野から白山や羽黒など全国各地の霊山に拠点を有す広がりをもち、山岳で修行をしながら里に降りて加持祈祷や調伏などの活動を行いながら布教する一方で、戦乱の際には従軍祈祷師として、また各地域を知る隠密としても重用され活躍する存在であった。近世以降は、山岳から里に拠点を移し、町や村に定着し御堂を建立するようになり、そこで加持祈祷を行い布教するよう変化する。また、この山伏修験僧の宗派は、農閑期や正月に宗派の神座を祀り、火伏せや悪魔祓いの祈祷神事を門付け儀礼として行うようになり、各地域に定着していくこととなる。この源姿の変化形態が現在に伝わるものとして、「山伏神楽」があり、同系の芸能として「番楽(秋田・山形)」や「脳舞(青森)」、「法印神楽(宮城)」があり、岩手では「大乗神楽(北上)」や「早池峰神楽(大迫)」等がこの源姿を有す芸能として知られている。

3．念仏剣舞源姿の推論

最澄の天台密教や空海の真言密教によって確立された〝純密〟と呼ばれる浄土思想から派生し空也や一遍の阿弥陀信仰を基軸として行われた在民一体の地方行脚布教の中に取り入れられた〝踊り念仏〟は、各地の民衆に受け入れられ、さらに、これらは半僧半俗の芸能者によって時代を越えながら地域に浸透され、各地に普及していく過程については既に記したとおりである。

この阿弥陀信仰は、地域の民衆にとって「踊り念仏」という媒体を通じての簡単で容易に理解できる名号信仰であったため、得にも耕作物の不作や飢饉及び戦乱の世に貧窮する民衆の生活にとって、死者や自己の精神を緩和する心の拠所となって定着したものとみられ、必然的に各地に教義に基づく阿弥陀信仰とともに独自の「踊り念仏」的習俗が形作られ形成されていく過程がここで推察される。東北地方を舞台とした飢饉や戦乱は、歴史上に記されるだけでも奈良時代末期から近世まで続き、特にも平安時代初頭から江戸時代初頭までは戦乱の世となり、岩手は正にその中心となった地域でもある。荒れた耕作地からの飢饉による餓死者の増大と戦乱に巻き込まれる死者の増大、正に生き地獄の様相を示す世相の中で阿弥陀信仰は民衆にとって大きな比重を占めて信仰され、受け入れられた所以とも考えられる。

この様な背景のもとで定着した念仏踊りは、仏教的視点から死者を供養する儀式としても発展し、一地域における民衆で組織する管理供養儀式として初源的共同体組織の中で踊られ、やがて「講中制度」に組み込まれて、時の流れと共に姿を変えながら受け継がれ、毎年行われる郷単位の供養儀礼や個々の死者供養儀礼に踊られていたものと推察される。

このことは、単に個々に継承されてきた念仏踊りであれば世代交代による時の推移とともに衰退する可能性もあり得るが、脈々と受け継がれ現代に存在する姿から見れば、郷単位で管理され伝承されてきた儀式形態が必然的に想定され得るであろう。

しかし、この念仏踊りの対象はあくまで、仏教思想から派生した阿弥陀信仰に起因するもので、現生での救いと死者を供養する念仏踊りとしての性格を有すものであり、現世に生活する中での災厄などの悪害を取り除く祈祷色まで包含した儀礼踊りではなかった。

地域に定着したこの踊りは、平安時代に最澄や空海による「山岳仏教の提唱」によって派生した山岳修行僧や山伏修験僧による「修験道」宗派の布教活動の影響を必然的に受けることとなり、両者を融合させた形で徐々に姿と性格を変えながら受け継がれ、祈祷色が色濃く反映された死者供養の念仏踊りとして完成された姿で地域に根差すこととなる。

この様な視点から当地に伝承されてきた念仏剣舞の源姿を推察すると、司東氏が述べる「極楽寺の行者舞」を剣舞の祖型とする論考も、幾度となく姿を変えながら変化し、完成するまでの念仏踊りの形成過程における影響度合いの一過程であることが推察され、本来の念仏剣舞の源姿とは言い難い論考であると判断される。

念仏反閇の源姿は、空也や一遍が地方行脚によって民衆にもたらした阿弥陀信仰布教の手段としての「踊り念仏」が長い時を経て民衆のもとで確立され源姿となって、さらにこの踊り念仏に地域に拠点を有す山伏修験や山岳修行者によって「修験道」的な要素が組み込まれて形態的に完成された姿が念仏反閇派生の源であると考える方が妥当性を生むものと推察するものである。近世においてこの念仏反閇は、〝剣〟を帯刀して踊ることから「剣の舞」、すなわち「念仏剣舞」と呼ばれるように変化し、さらに地域の共同体の中での儀礼踊りとして確立化されたものであるため、口伝を基本としていた念仏踊りに由来などを盛り込んだ規則を付して伝承されてきたものと推察する。これらは、「秘伝書」として現在に伝わるが、この文面を観察すると仏教的思考や修験的な作法及び思考が盛り込まれており、けっして地域民衆の手によって記されたものとは考え難く、想像するに完成過程において、上述したように地域で活動する山岳修行僧や修験僧が、近世に至ってこれまでの口伝や地域の伝説などを加味して、自己の知識を基に民衆代表者の依頼によって形作られたものと推察するがいかがなものであろうか。岩崎鬼剣舞には、享保17年(1732)に作成された「剣舞由来録」が巻物で今に伝わっている。

すずき　あきよし
鈴　木　明　美
北上市立鬼の館　上席主任学芸員

鬼の里だより

●企画展・特別展

〈特別展〉「故門屋館長追悼展」
10月11日(日)～12月13日(日)　3,207人

〈特別展〉開放事業
「よろず伝承展
奥州文庫　高橋勉コレクション　～いにしえの匠～」
12月20日(日)～２月21日(日)　3,272人

〈特別展〉平成21年度収蔵資料展
「千種万様」
３月7日(日)～４月18日(日)　開催中

●鬼の館芸能公演

10月12日　飯豊鬼剣舞　観客　212人
10月25日　後免町鬼剣舞　観客　129人

●福豆鬼節分会前夜祭

「厄除け百鬼水夜行宴」
１月30日(土)　入場者　74人

●福豆鬼節分会

１月31日(日)　入場者　1,548人

●移動展示

祝　第119回鉄道の日　「陸奥　鬼のなかまたち」
10月17日(土)～11月30日(月)
場所:北上駅東口改札口付近

●鬼学講座

第１回　12月23日(水)「国内の鬼習俗　まつりと鬼儀礼」
写真家　宗形慧氏　受講者　32人

第２回　１月14日(木)～16日(土)移動研修
「長野県野沢温泉道祖神祭り」　受講者　13人

第３回　２月10日(水)「道祖信仰とは　信仰としての意義」
岩手県文化財愛護協会顧問　受講者　25人

第４回　２月27日(土)「白木野の道祖信　種類と性格・祭儀礼」
白木野地区習俗儀礼伝承者　高橋美道氏　受講者　28人

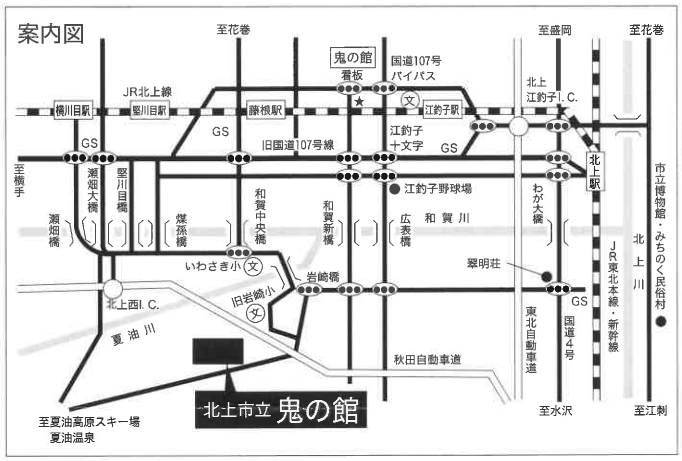
第５回　３月14日(日)「秋田の道祖信　種類と性格・祭儀礼」
秋田県民俗学会副会長　斎藤壽胤氏　受講者　26人

●鬼っこわんぱく講座

「鬼剣舞体験」
１月９日(土)・10日(日)・17日(日)・23日(土)・24日(日)・30日(土)・31日(日)　全7回講座　参加者　15人

●鬼ッズ・プレイミュージアム　10月１日～３月31日
和紙面づくり　参加者　80人
出前講座　６件　参加者　96人
＜冬休みワークショップ＞
すな絵馬づくり　参加者　53人
消しゴムはんこづくり　参加者　42人
ステンド鬼灯りづくり　参加者　58人

利 用 案 内



開館時間　午前９時から午後５時まで。
なお、入館は午後４時30分まで。

休 館 日
・12月～３月の月曜日
・12月～３月の国民の祝日の翌日
（土・日・月曜日の場合は火曜日）
・館内整理日（11月27日～11月30日）
・年末年始　（12月28日～１月４日）
・臨時休館日（５月26日、９月15日）

入 館 料

一　般	350円（300円）
高 校 生	240円（180円）
小中学生	170円（120円）

（　）内は20人以上の団体料金。
下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。
・毎週土・日曜日
・学習活動で申請利用する時

交通案内
・ＪＲ北上駅西口よりバスで25分。
煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。
・JR北上駅より車で20分。
・東北自動車道「北上江釣子I.C.」、秋田自動車道「北上西I.C.」よりともに車で15分。

北上市立鬼の館だより
第　32　号　2010.3.31
編集・発行　北上市立鬼の館
〒024-0321　北上市和賀町岩崎16地割131番地
TEL 0197(73)8488　FAX 0197(73)8508